

# 第15回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム

## 第II部主催学会からの講演

### 各種データおよび第4回科学技術系専門職の 男女共同参画実態調査に基づく ダイバーシティ推進における産学の取り組み

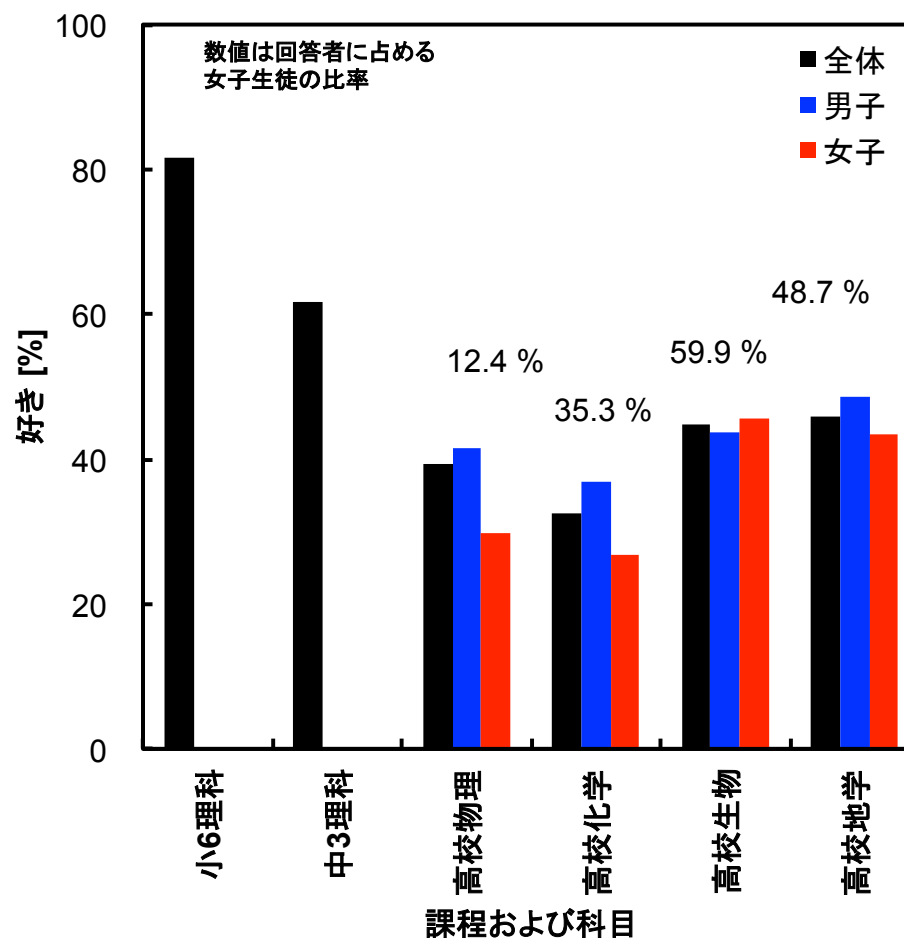
宮崎あかね

化学工学会・日本女子大学教授

# 発表内容

1. シーズからたどる産学の女性比率
2. 大規模アンケート結果に見る産学の実態

# 初等中等教育における理科に対する興味

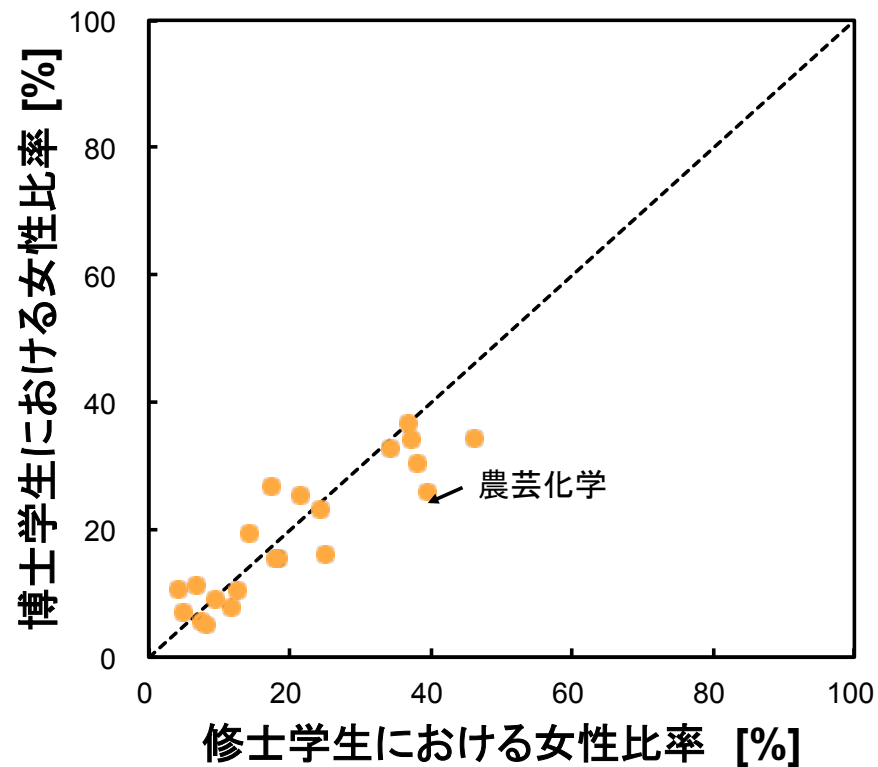
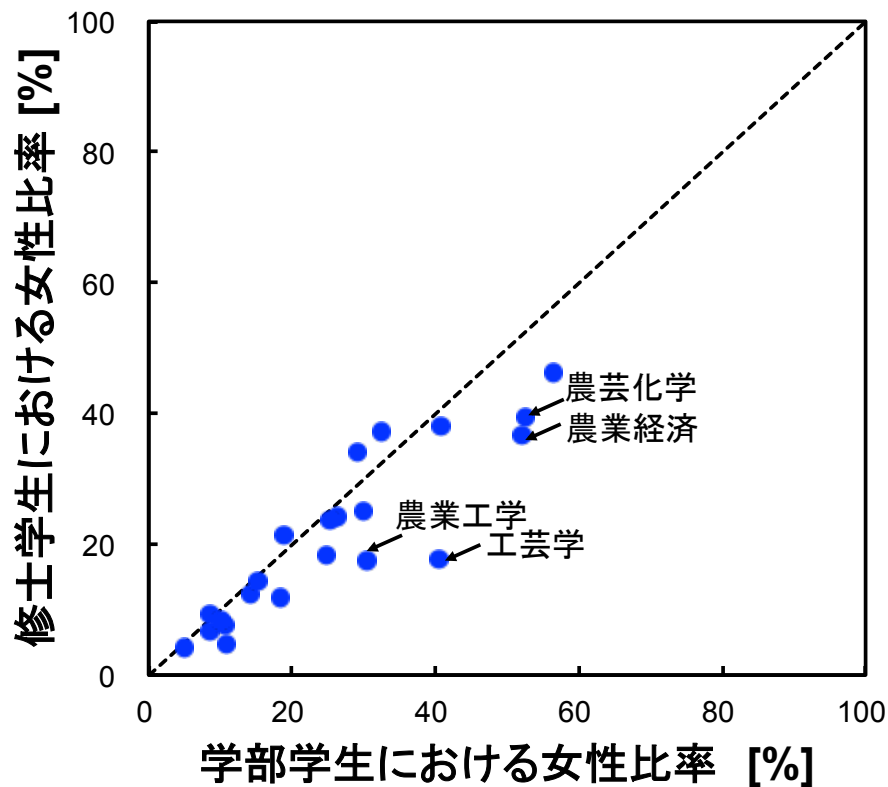


国立教育政策研究所「平成24年度全国学力・学習状況調査」、  
「平成17年度高等学校教育課程実施状況調査」結果より作成

物理・化学については高校の時点で男女の興味の差が発生している

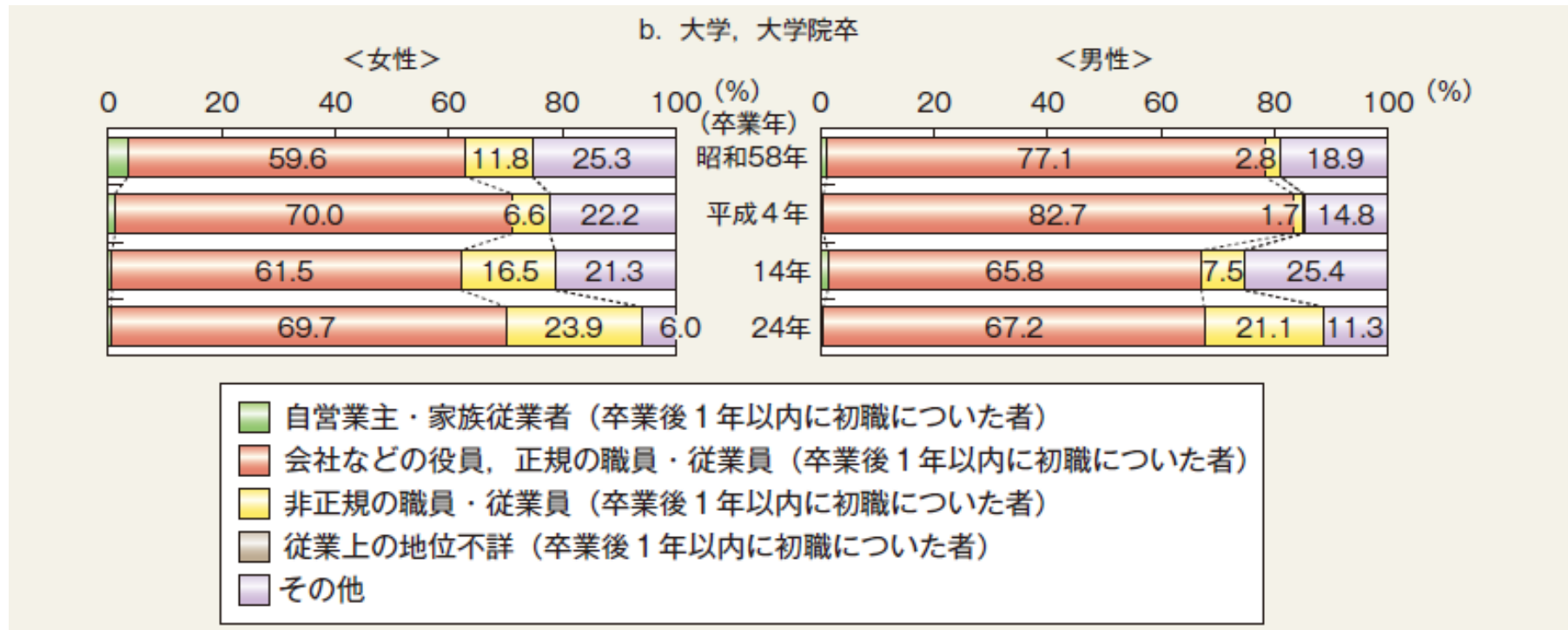
# 大学(理・工・農学部)における女性比率

文部科学省「学校基本調査-2016年度」結果より作成



分野によって女性比率の違いはあるが、進学率に大きな差異はない

# 大学・大学院卒の最初の就職



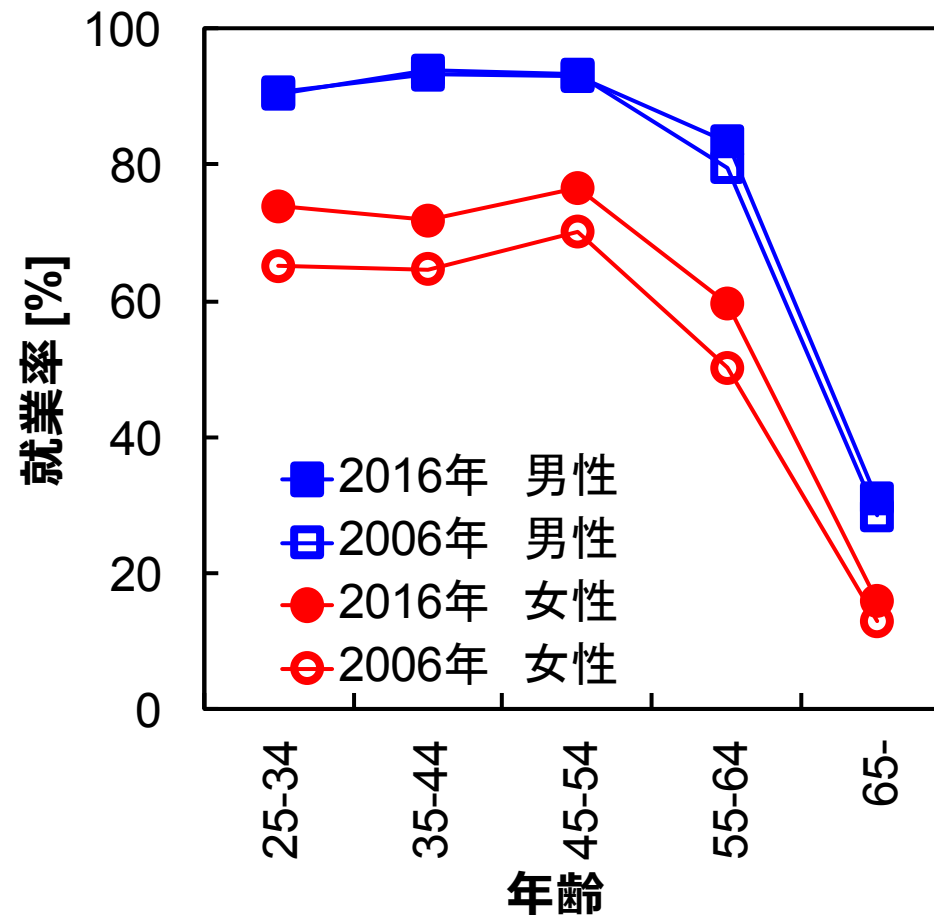
内閣府男女共同参画局「男女共同参画白書 平成28年度版」

[http://www.gender.go.jp/about\\_danjo/whitepaper/h28/gaiyou/pdf/h28\\_gaiyou.pdf](http://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/h28/gaiyou/pdf/h28_gaiyou.pdf)

大学・大学院卒の最初の職業は男女差があまりない  
しかし、理工系に限ると男女差がわかる実データはない

# 就業の継続性

総務省統計局「労働力調査平成28年」結果より作成

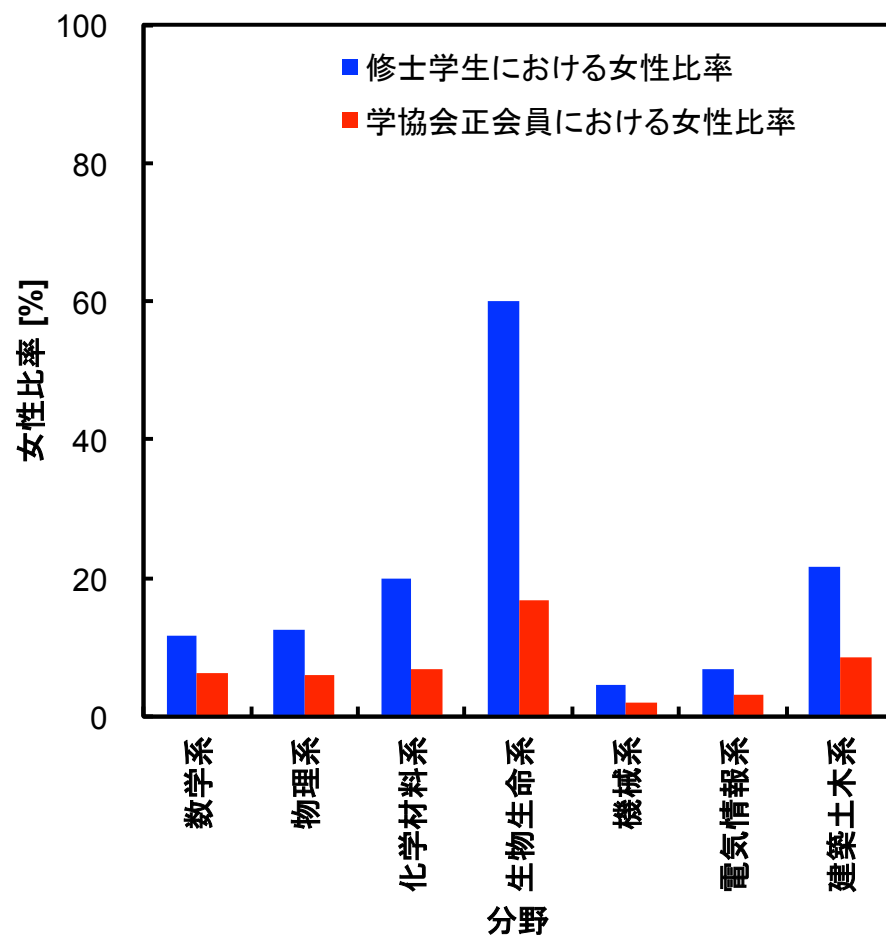


ところが年齢別にみると、すなわち、就業の継続性を見ると、女性は男性との差が大きい

# 理系分野別女性比率

文部科学省「学校基本調査-2016年度」

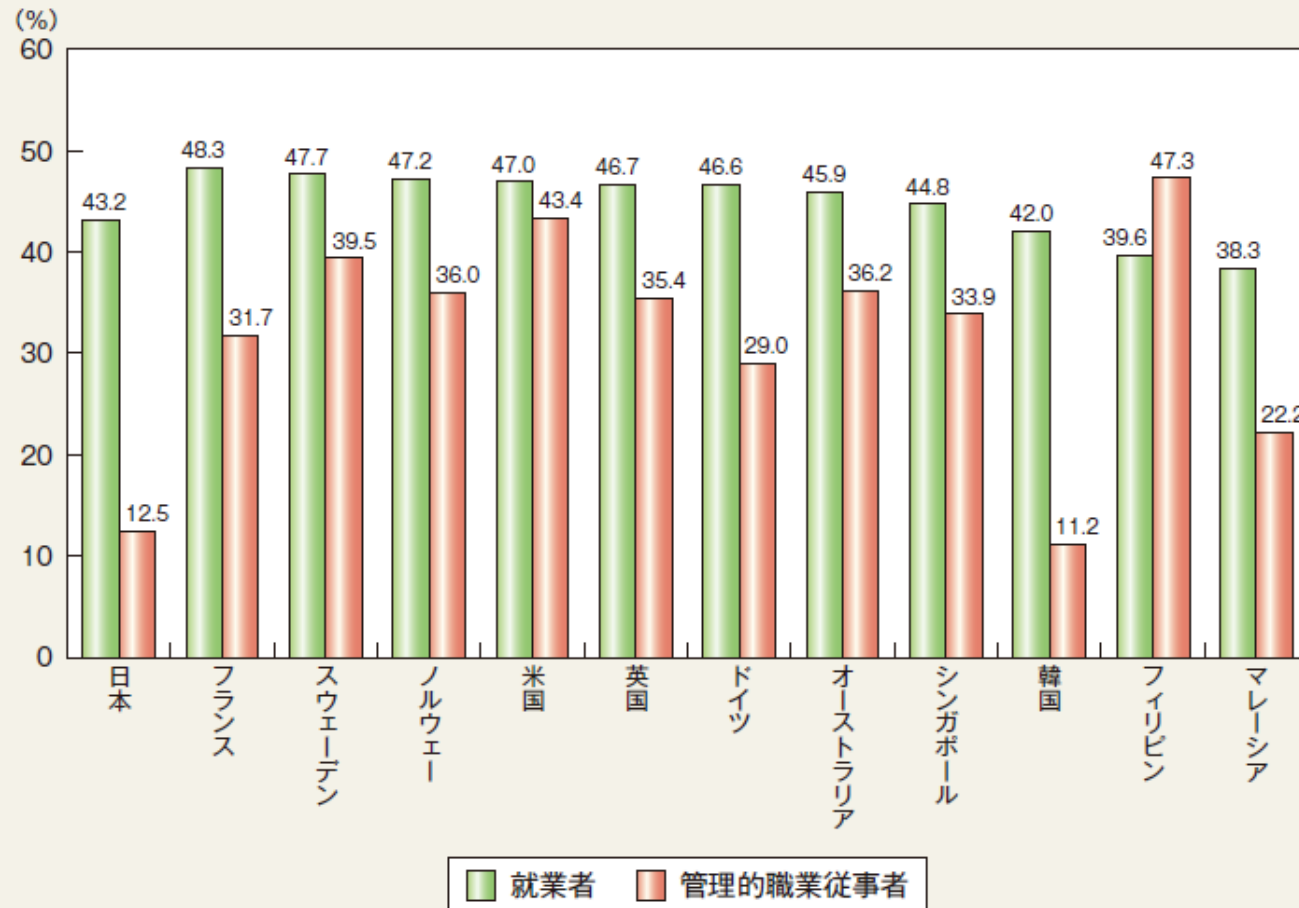
男女共同参画学協会連絡会「2015年度女性比率調査」結果より作成



分野によらず、社会人になって研究に関わっている女性比率が減少

# 管理職

I-2-13図 就業者及び管理的職業従事者に占める女性の割合（国際比較）



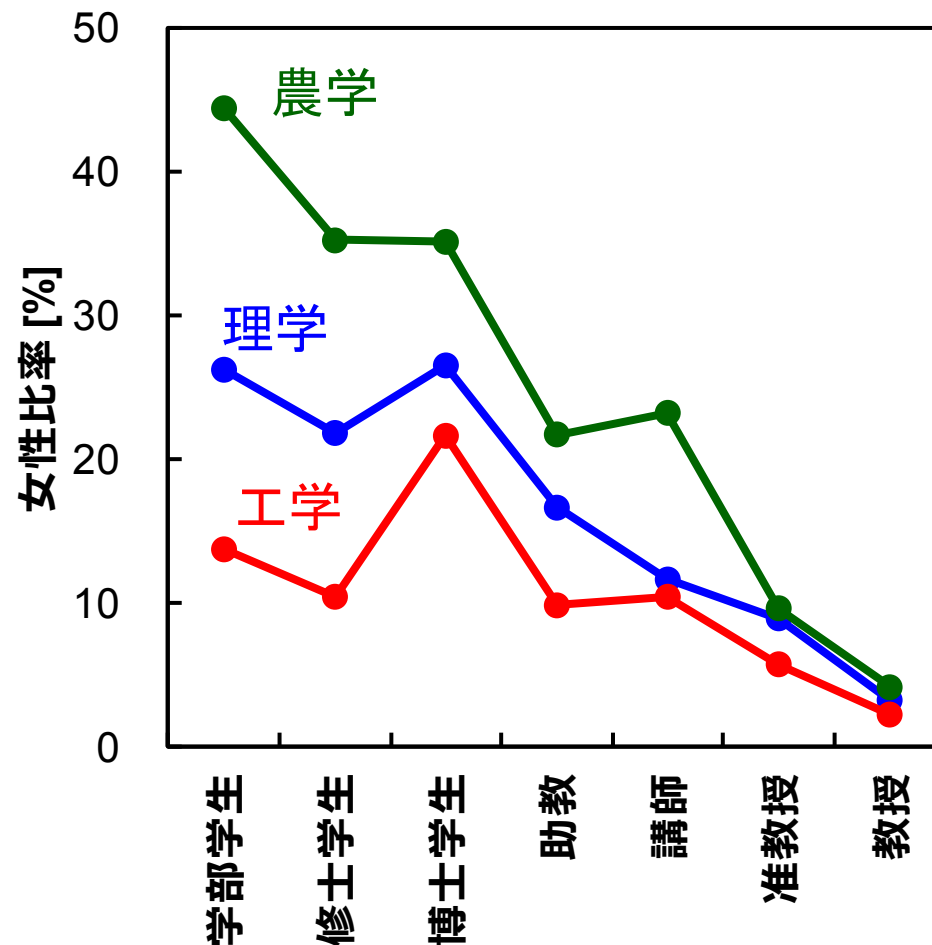
内閣府男女共同参画局「男女共同参画白書 平成28年度版」

[http://www.gender.go.jp/about\\_danjo/whitepaper/h28/gaiyou/pdf/h28\\_gaiyou.pdf](http://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/h28/gaiyou/pdf/h28_gaiyou.pdf)

しかも管理職となると女性比率はもっと低くなる



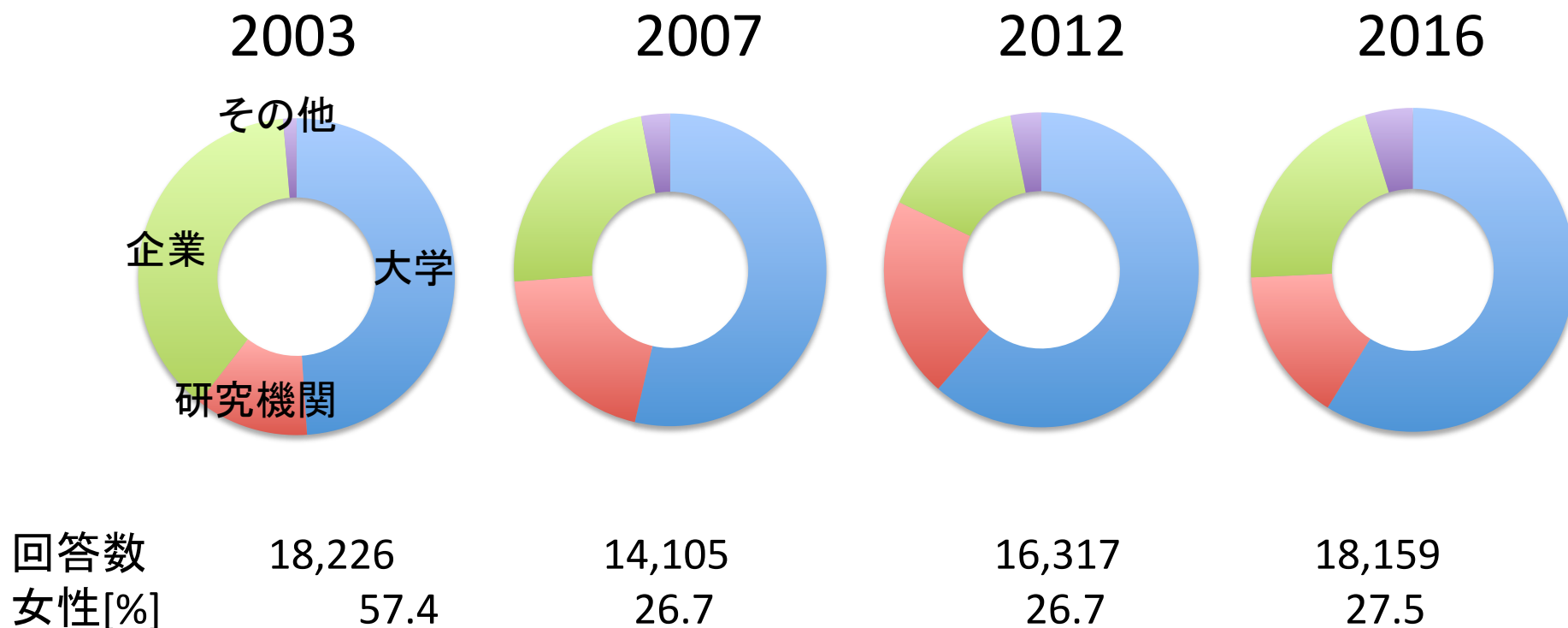
# 国立大学法人における学生・教員女性比率



国立大学協会「国立大学における男女共同参画推進の実施に関する第13回追跡調査報告書」(2016)より作成

**大学教員の女性比率は職階が上がる毎に減少する**

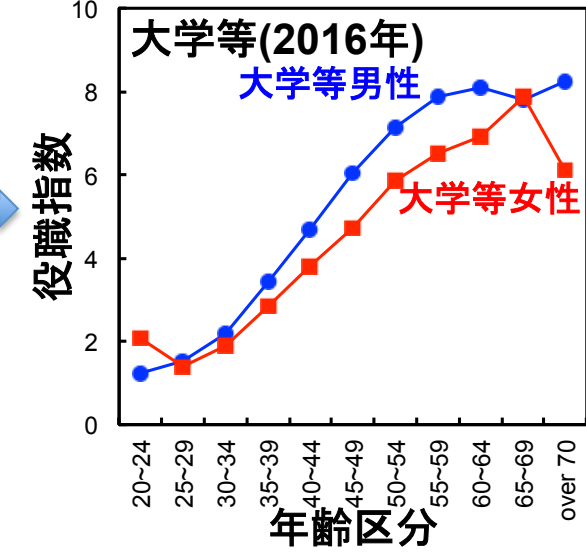
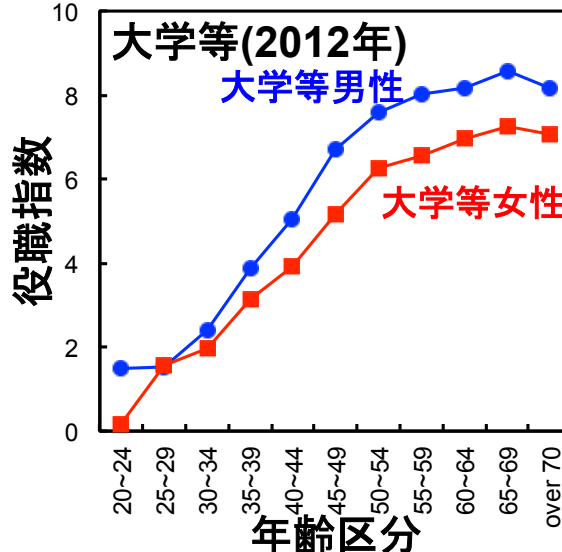
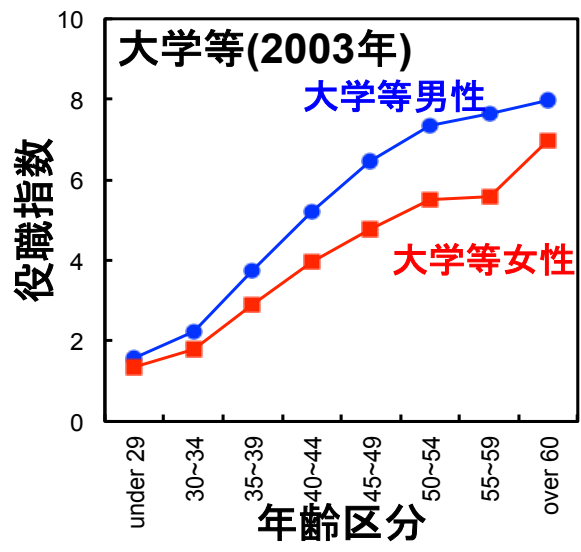
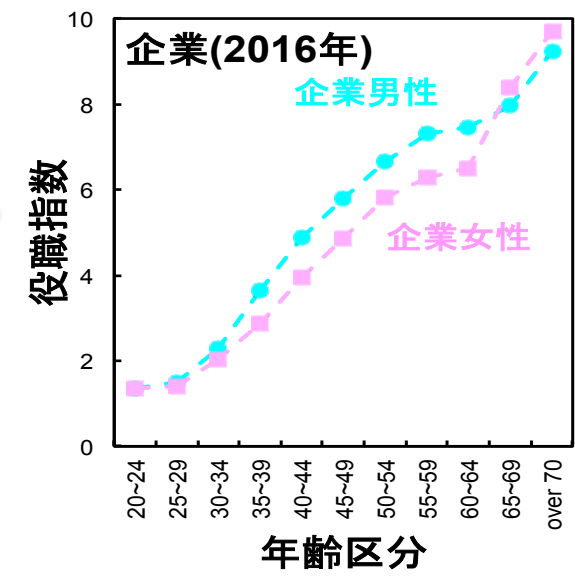
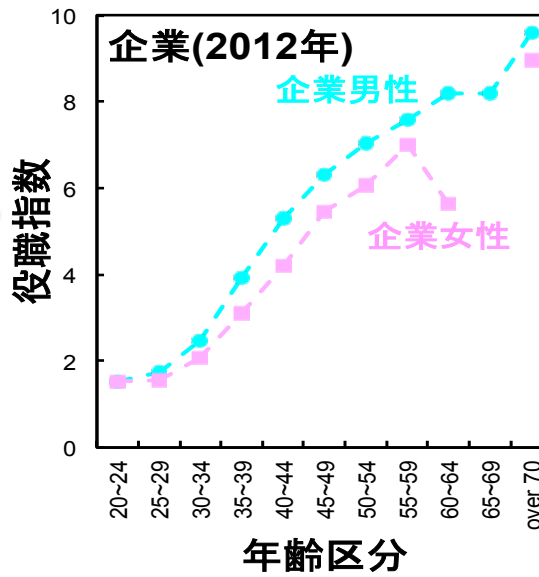
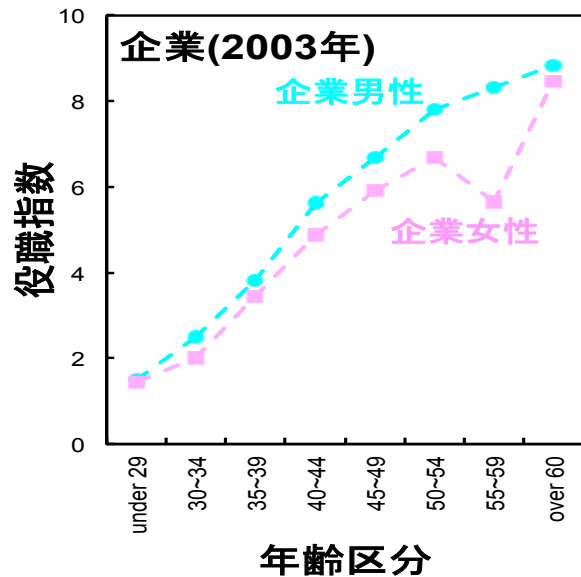
# アンケート解析結果を見る際の前提条件



大学、女性の回答割合が高い

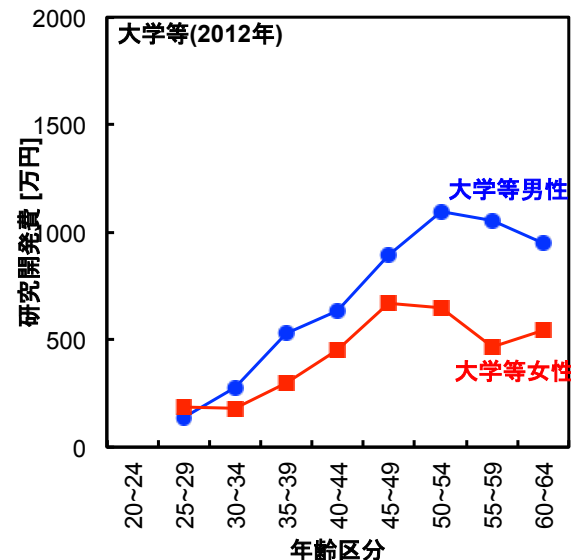
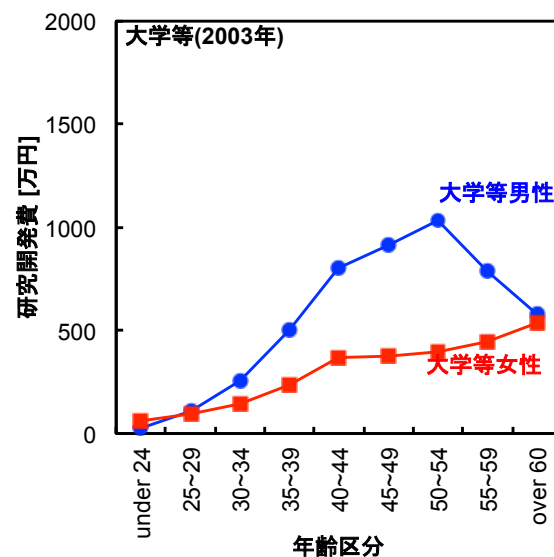
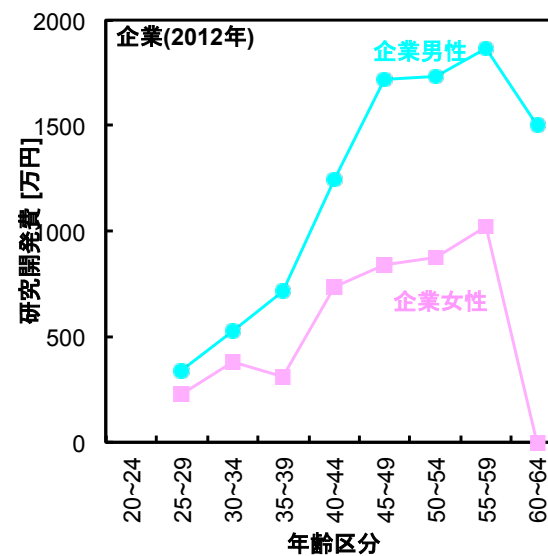
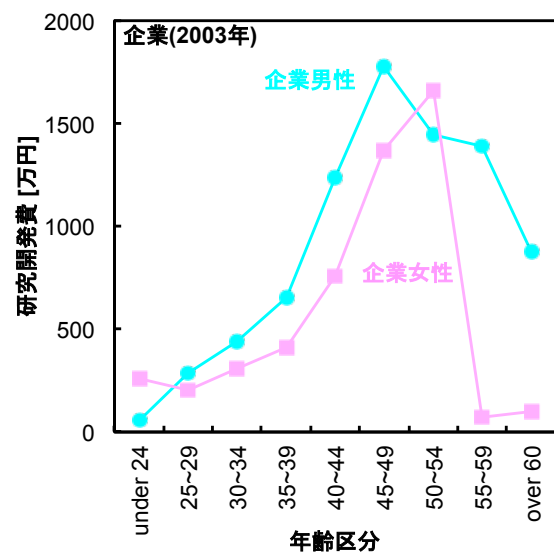
男女共同参画学協会連絡会「第一回、第二回、第三回、及び第四回科学技術系専門職の男女共同参画実態調査 アンケート報告書」(各2004, 2008, 2013, 2017)より作成  
以降同様

# 役職指数の年齢推移



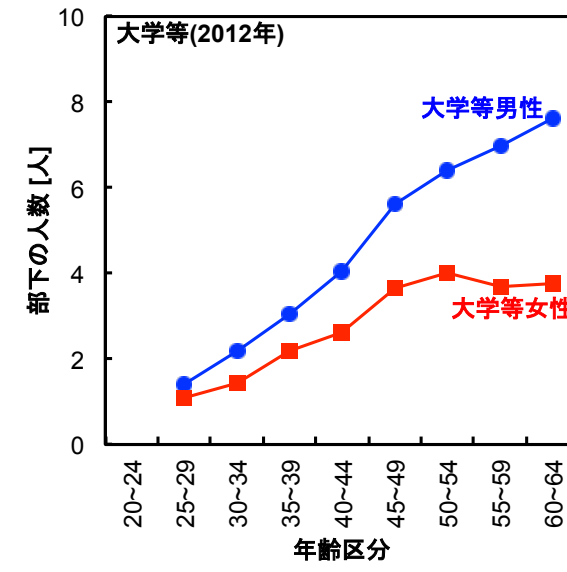
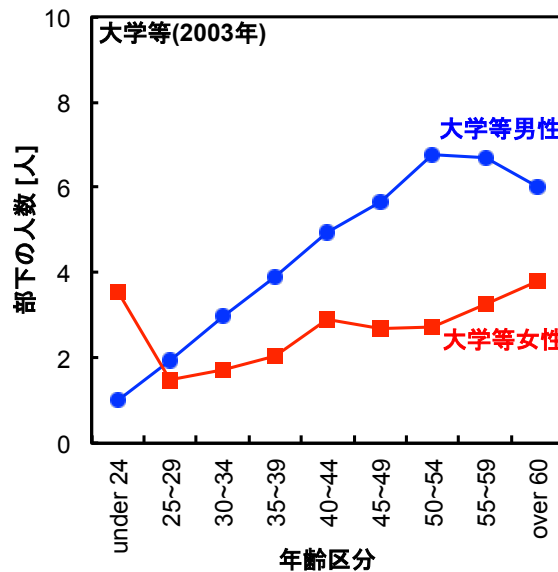
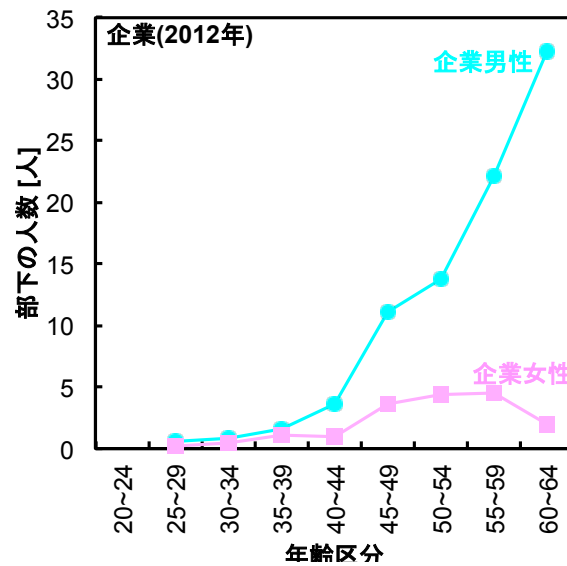
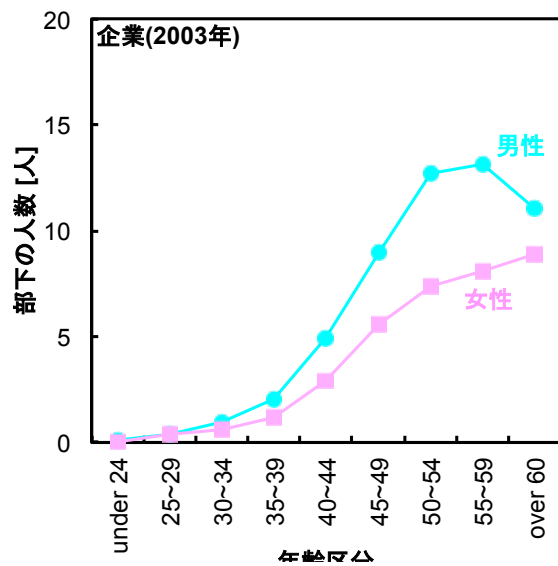
企業では女性の登用が進んでいる。大学は追いつきつつある。<sup>11</sup>

# 研究者1人あたりの裁量可能な研究開発費



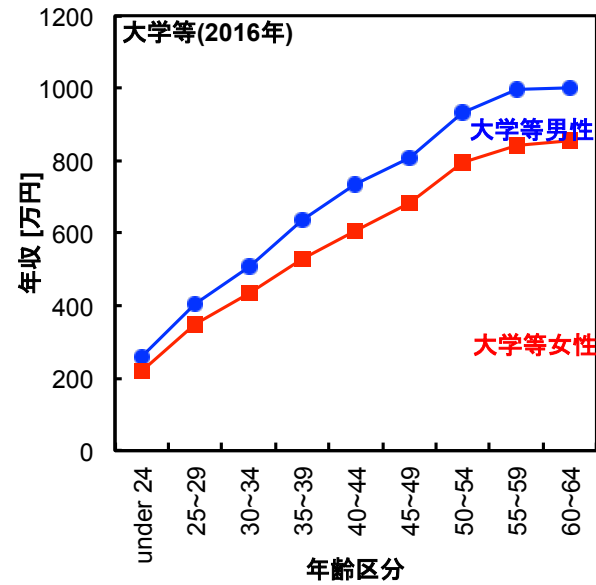
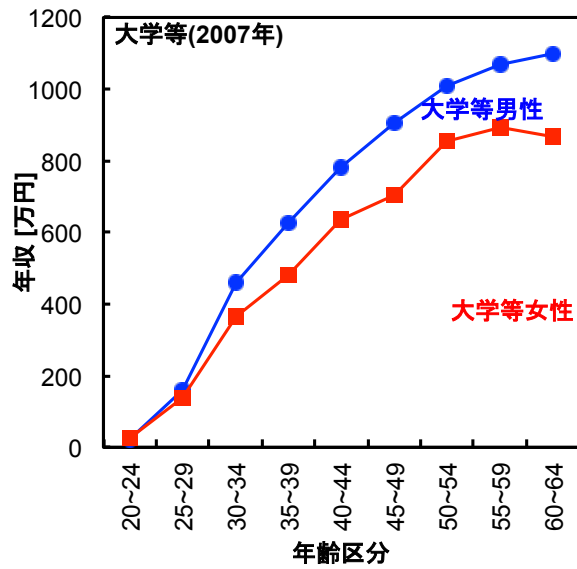
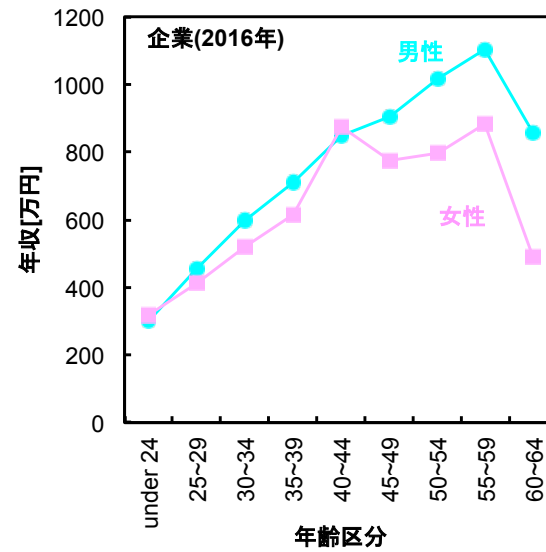
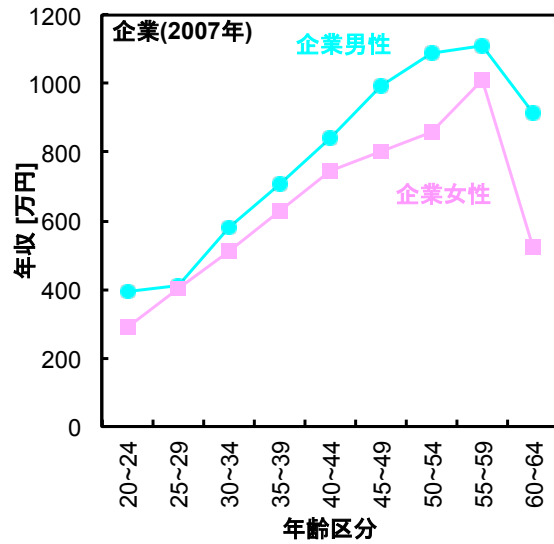
大学では男女差が縮小しているが、企業では逆の傾向

# 研究者1人当たりの部下人数

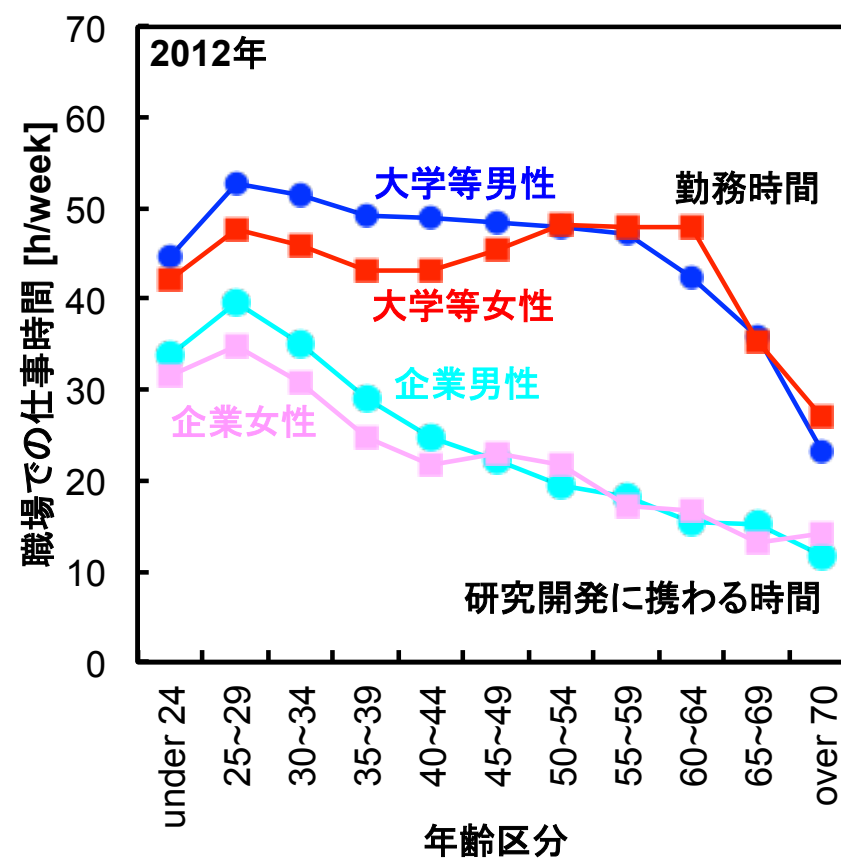
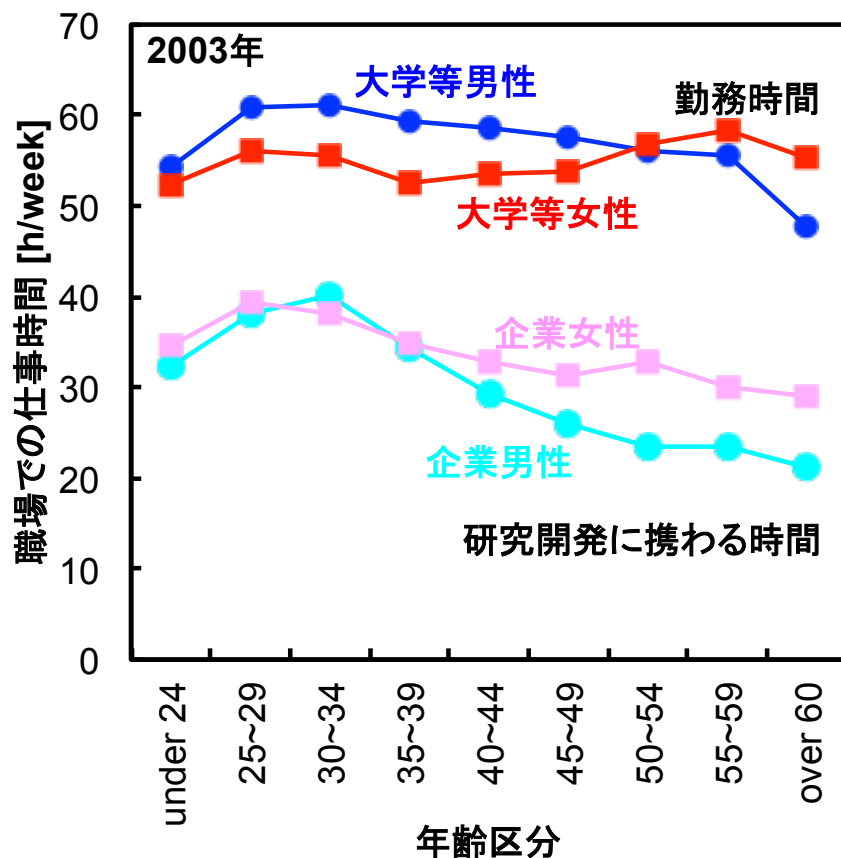


大学では男女差が縮小しているが、企業では逆の傾向

# 年収(2007-2016)

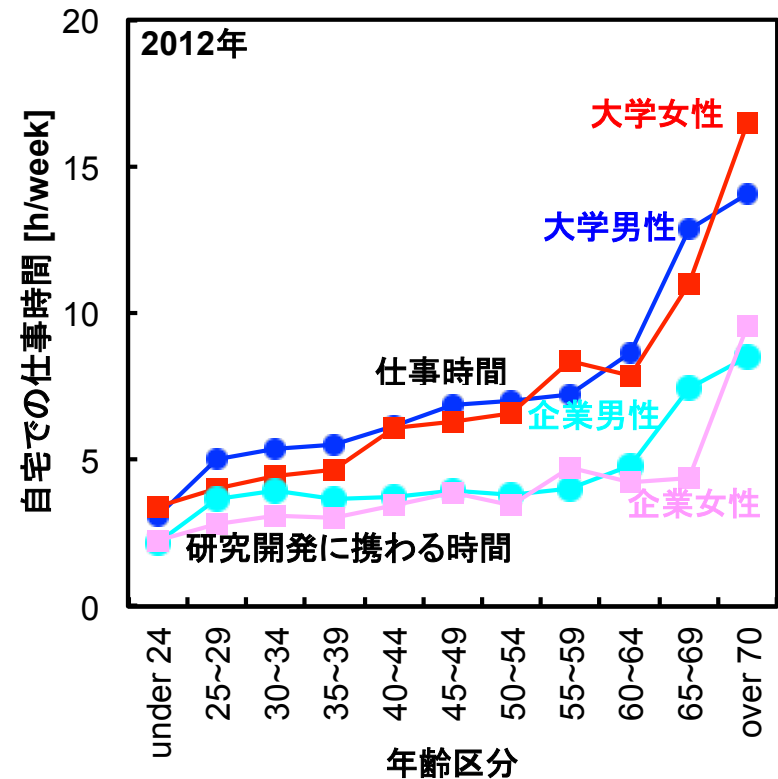
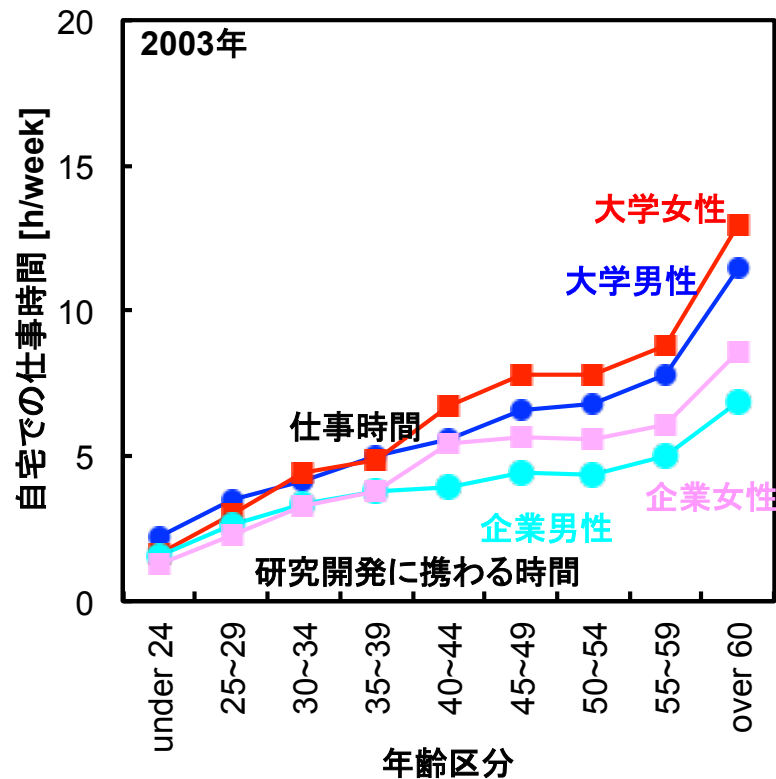


# 職場での仕事時間



大学・企業ともに職場での仕事時間は減少  
25～44歳で大学・企業に共通する男女差

# 自宅での仕事時間



大学・企業ともに男女差が縮小

大学は職場の仕事時間が減少している分、家で働いている



# 男女共同参画社会推進のために今後必要なこと

## 男性

	2003		2016	
	男性全体	企業男性	大学男性	
男性の意識改革	—	1位 (68.6%)	1位 (60.7%)	
女性の意識改革	—	2位 (60.6%)	2位 (56.9%)	
育児・介護支援の拡充	—	3位 (59.5%)	3位 (57.3%)	
多様な勤務形態の拡充	—	4位 (54.3%)	—	
職場環境整備	1位 (60.3%)	5位 (51.1%)	4位 (50.3%)	

## 女性

	2003		2016	
	女性全体	企業女性	大学女性	
男性の意識改革	1位 (63.7%)	1位 (76.7%)	1位 (74.1%)	
職場環境整備	2位 (63.6%)	—	3位 (65.4%)	
男性の仕事と家庭の両立	3位 (57.06%)	—	—	
女性の意識改革	—	2位 (71.6%)	2位 (65.4%)	
多様な勤務形態の拡充	—	3位 (68.7%)	6位 (58.6%)	
男性の家事・育児への参加の増大	—	4位 (68.7%)	5位 (63.4%)	
育児・介護支援の拡充	—	5位 (55.2%)	4位 (58.6%)	

\* 過半数の回答者が選んだもの

首位は「男性の意識改革」のまま  
 職場環境整備より「男性の家事・育児への参加の増大」や  
 「多様な勤務形態」を求める声が大きくなった